

弘前市SDGs 教育旅行プログラム プログラムサポート体制&お問合せ

弘前市SDGs教育旅行プログラムのサポート体制

当日のプログラムを円滑に進行できるようにサポートをいたします。

1. 各実施場所へ進行管理するガイドを配置
2. 貸切バスの駐車案内
3. 生徒様の誘導
4. 当日のスケジュール管理
5. 当日人数変更の調整

弘前市SDGs教育旅行プログラムのお申込み・お問合せは

公益社団法人 弘前観光コンベンション協会

〒036-8588 青森県弘前市大字下白銀町2番地1(弘前市立観光館内)

TEL:0172-35-3131 / FAX:0172-35-3132

E-mail: hirokan5@jomon.ne.jp



弘前市は当プログラムを通じて持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



はじめに

弘前市は、SDGs達成に向けて優れた取組を提案した自治体として、令和5(2023)年5月に青森県内自治体で初めて「SDGs未来都市」に選定されました。当市の基幹産業であり、文化やシビックプライドとしても重要な「日本一のりんご産業」を将来も持続可能とするため、これまで以上に様々な取組に挑戦しています。その取組の一つとして「りんご産業」をテーマに関連企業のご協力のもと、「弘前市SDGs教育旅行プログラム」を開発しました。

近年、教育現場で「SDGs学習、探究学習、キャリア教育」といったニーズが高まっているため、新たな教育旅行プログラムとして、ご提案いたします。

関連企業のSDGsの取組を学ぶだけでなく、探求学習の観点から、参加する生徒自らが主体的に問い合わせを立て答えを出す、約2時間の探究型プログラムとなっています。

弘前市SDGs 教育旅行プログラムについて



弘前市SDGs 教育旅行プログラムについて

探究プログラムの特徴

①「旅マエ～旅ナカ～旅アト」でより深まる探究学習

事前学習 自ら問い合わせる

- 課題研究
- 事前調査

生徒一人一人が何を学びたいかを考え、テーマを設定。事前調査を通じて、自ら「問い合わせる」を立てる。

現地学習 体験・情報収集

- 現地学習
- 講話・ワークショップ

旅行中は、自らが立てた「問い合わせ」に対し、体験や見学、交流を通じて気づきや答えに対するヒントを得る。

事後学習 捉り下げる

- 振り返り
- 自分ごと化/ビジネスアイデア

旅行を振り返り、どんな気づきや学びがあったかを整理し、自らが立てた「問い合わせ」に対して答えを導いていく。

②「SDGs探究」「キャリア教育」それぞれの観点から学ぶ

SDGs探求の観点

りんご関連企業等が実際に実行している社会課題や環境問題を解決するSDGsの取組を学び、自分ごととして視野を広め、自分の生活に置き換えて実践する「答え」を出す。

キャリア教育の観点

企業等の担当者より、取組や抱える課題をヒアリングして、自分が担当者として解決に向けたアイデアや答えを導き出し、社会に出た際の考える力を身につける。

③プログラムに応じた「学習シート」の活用

「学習シート」を活用して、それぞれの観点からの学習を導き出すように、より効果的かつ効率的な学習をする。

弘前市SDGs 教育旅行プログラム① (JAアオレン(青森県農村工業農業協同組合連合会)) りんご加工業者のSDGsの取組を学ぶ



JAアオレンのりんごジュースの美味しさのヒミツ、独自の製法「密閉搾り」とりんご加工業者が抱える課題から、その先にある可能性を学ぶ

りんご加工業者が抱える課題「りんごの搾りかすの利活用」の鍵は乾燥にありました。特殊な技術で乾燥した搾りかすを原料とし機能性飼料やアップルレザー、バイオプラスチックなど、独自の研究開発を学びます。

①工場見学

衛生的な環境と徹底した品質管理のなかで製造される「りんごジュース」の生産ラインを間近で見ることができます。また、りんごジュースができるまで等のパネルも設置しており、製造工程や食育について学ぶことができます。



②JAアオレンのSDGsの取組について(講話)

りんご加工業者が抱える、搾りかすの課題を乾燥品にすることで資源として広く活用し、これを原料としたアップルレザーやバイオプラスチック製品、コーヒーかすと組み合わせた機能性飼料等へ加工する取組を学びます。



③グループワーク / 発表

JAアオレンのSDGsの取組から、りんご加工業者が抱える課題とその先に広がる可能性について考え、生徒の主体的に協働的なグループワークから、思考力や表現力を育成します。

実施場所: 弘前市大字東瀬2丁目2番地1(本社・工場)
実施時間: 10:00～12:00 / 13:00～15:00
実施可能時期: 通年
実施可能日等: 本会営業日 ※ただし、本会の業務状況によって変更となる場合もあります。

所要時間: 約2時間
受入可能人数: 20名程度
トイレ: 男女別
駐車場: 有(大型バス:3台まで)

※料金はお問い合わせ下さい。

弘前市SDGs 教育旅行プログラム② (弘前シードル工房kimori)

地域に根付く“アグリカルチャー”としての弘前りんごを学ぶ



プログラムスケジュール

- 10:00～11:00(13:00～14:00)
①弘前りんごの歴史と弘前シードル(講話)
- 11:00～11:30(14:00～14:30)
②農作業体験
- 11:30～12:00(14:30～15:00)
③グループワーク/発表
- 12:00(15:00)終了

※()内は午後実施の場合の時間です。

実施場所: 弘前市大字清水富田字寺沢125番地(弘前市りんご公園内)
実施時間: 10:00～12:00 / 13:00～15:00
実施可能時期: 通年(10月下旬～11月下旬は除く)
実施可能日等: 実施日については要相談
所要時間: 約2時間
受入可能人数: 40名程度 ※最少催行人員20名
トイレ: 男女別
駐車場: 有(大型バス複数台可)

※料金はお問い合わせ下さい。

「りんごづくりは人づくり」後継者問題と人材育成からりんご農家を活性化させる新たな挑戦を考える

弘前りんごの歴史とりんご栽培から、後継者問題による人材育成の大切さを学び、新しい産業としての「弘前シードル」づくりから、りんご産業の発展性や持続可能性、そして地域の経済成長や街づくりを考えます。

①弘前りんごの歴史と弘前シードル(講話)

「りんごづくりは人づくり」弘前りんごの歴史と栽培から、人材育成の大切さを学ぶ。また、りんご農家の後継者問題と新しい産業としての「弘前シードル」づくりの挑戦を考えます。



②農作業体験

りんご畠で、実際にりんごの樹を見ながら栽培について学び、(農作業体験から)栽培の難しさを体験します。



③グループワーク / 発表

弘前のりんご農家が抱える課題に対する理解を深め、地域の産業としての発展性や持続可能性についてを考え、生徒の主体的に協働的なグループワークから、思考力や表現力を育成します。



弘前市SDGs 教育旅行プログラム③ (もりやま園)

りんご産業が発展し続けるための戦略を学ぶ



プログラムスケジュール

- 10:00～11:00(13:00～14:00)
①りんご産業が発展し続けるための戦略
～人口減少時代の備え～(講話)
- 11:00～11:30(14:00～14:30)
②農作業体験
- 11:30～12:00(14:30～15:00)
③グループワーク/発表

※()内は午後実施の場合の時間です。

実施場所: 弘前市大字清水富田字寺沢125番地(弘前市りんご公園内)
実施時間: 10:00～12:00 / 13:00～15:00
実施可能時期: 通年(10月下旬～11月下旬は除く)
実施可能日等: 実施日については要相談
所要時間: 約2時間
受入可能人数: 40名程度 ※最少催行人員20名
トイレ: 男女別
駐車場: 有(大型バス複数台可)

※料金はお問い合わせ下さい。

発想の転換でマイナスをプラスに! ICT化の次世代につながるサイクルで農業を成長産業へ

「捨てる作業」を「モノづくり」に転換する新しい発想が、気象に左右されない安定供給可能な商品を生み出し、通年雇用の確保を可能にしています。摘果りんごを活用した「テキカカシードル」の開発を中心に、りんご産業全体の成長に貢献する取組を学びます。



①りんご産業が発展し続けるための戦略 ～人口減少時代の備え～(講話)

農業を持続可能にするには、労働生産性を上げることが重要になります。手作業が多いりんご農家。年間の作業の75%は葉っぱや枝、実を捨てる作業です。この時間をモノづくりに変える、新しい発想で摘果りんごを原料にした「テキカカシードル」の製造に挑戦しています。この取組から「未来の農業」の在り方を学びます。



②農作業体験

りんご畠で、実際にりんごの樹を見ながら栽培について学び、農作業体験から栽培の難しさを学ぶ。



③グループワーク / 発表

もりやま園の「捨てる作業」を「モノづくり」に転換する新しい取組から「未来の農業」の在り方について考え、生徒の主体的に協働的なグループワークから、思考力や表現力を育成します。